

平成 27 年 4 月 24 日

各 位

リアルコム株式会社  
代表取締役社長 龍 潤生  
(コード番号：3856 東証マザーズ)  
問合せ先：取締役 吉永正紀  
電話：03-6864-4001 (代表)

## 子会社による合弁会社（孫会社）設立に関するお知らせ

当社の連結子会社であるWWB株式会社（以下、「WWB」といいます。）は、本日開催の取締役会におきまして、合弁会社の設立を決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. 合弁会社設立の目的

当社グループは、再生可能エネルギー社会の構築に貢献するため、当社のIT技術とWWBの太陽光発電システムのノウハウを基盤に、事業シナジーを図り、太陽光発電事業を成長事業として位置づけ、経営資源を集中することで収益の拡大に尽力しております。また、より一層の業容拡大のため、太陽光パネル・モジュールの製造・販売、建築工事施工、IT技術を利用した保守運営・メンテナンスなど太陽光発電事業におけるワンストップサービスを実現しており、新エネルギー・省エネルギー技術やスマートグリッド関連技術の開発についても、積極的に取り組んでおります。

平成 27 年 1 月 15 日に公表しました「子会社による新日本金属鉱業株式会社との業務提携に関するお知らせ」に記載のとおり、WWBと新日本金属鉱業株式会社は、現在、国立大学法人東北大学（名誉教授大見忠弘氏）と共同特許出願した薄膜シリコン型太陽電池に関する研究開発プロジェクトを推進しております。

当該プロジェクトは、薄膜シリコン型太陽電池の製品・実用化を目的として、平成 27 年 12 月を目途に、太陽光パネル・モジュールにおいて、従来製品の約 1.5 倍の発電効率と約 1/2 の製造原価コストを実現する画期的な製品・商品化を目指しております。

当該プロジェクトの推進にあたり、具体的な事業化等を図るため、その目的に特化した会社として、このたび、国立大学法人東北大学名誉教授の大見忠弘氏と合弁会社を設立することといたしました。

当該合弁会社は、当該プロジェクトに関する特許の所有や管理等をはじめ、薄膜シリコン型太陽電池の開発・製造等を主事業として、WWBとの協業・協働を図り事業展開をしていく予定です。

また、将来的には、WWBの顧客基盤等を活かし、継続的に安定した製品供給が可能となることを期待しており、販路拡大を進めていく予定です。

当社グループの持続的成長の確保に向けて、引き続き、太陽光発電事業を成長事業として位置づけ、独自性ある高付加価値の製品・サービスの継続的な供給をすることで収益の拡大を図り、再生可能エネルギー社会の構築に貢献していく所存であります。

(※) 薄膜シリコン型太陽電池 (出典：環境ビジネスオンライン/環境用語集)

数 $\mu\text{m}$  (1000 分の 1 ミリメートル) 以下のごく薄いシリコン膜を使った太陽電池の総称。

極めて薄いシリコン膜を用いるため、シリコン使用量は結晶型に比べて 1/100 程度。

低コストで生産でき、軽くてフレキシブルな太陽光パネル・モジュールを作ることができる。

大型基板や柔軟性のある基板への利用が可能で、建材一体型太陽電池にも応用されている。

2. 合弁会社を設立する連結子会社 WWB の概要

(1) 名 称	WWB株式会社
(2) 所 在 地	東京都品川区東品川二丁目2番4号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 龍 潤生
(4) 事 業 内 容	太陽光発電事業、建機販売事業など
(5) 資 本 金 の 額	5000 万円

3. 合弁会社の概要

(1) 名 称	東北サイエンス株式会社 (予定)
(2) 所 在 地	東京都品川区東品川二丁目2番4号 (予定)
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 龍 潤生 (予定)
(4) 事 業 内 容	薄膜シリコン型太陽電池の開発・製造など
(5) 資 本 金 の 額	1000 万円
(6) 設 立 年 月 日	平成 27 年 5 月 8 日 (予定)
(7) 出 資 比 率	WWB株式会社 51% 大見忠弘 49%

4. 合弁相手先の概要

(1) 名 称	大見忠弘	
(2) 住 所	東京都文京区	
(3) 上場会社との関係	資 本 関 係	該当事項はありません。
	人 的 関 係	該当事項はありません。
	取 引 関 係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。

5. 日 程

- (1) 取締役会決議日:平成 27 年 4 月 24 日  
(2) 合弁会社設立日:平成 27 年 5 月 8 日 (予定)

6. 今後の見通し

当該合弁会社設立による平成 27 年 6 月期の連結業績に与える影響につきましては軽微であります。今後、公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上

(参考) 当期連結業績予想 (平成 27 年 2 月 13 日公表分) 及び前期連結実績

(百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
当期連結業績予想 (平成 27 年 6 月期)	4,133	452	372	259
前期連結実績 (平成 26 年 6 月期)	3,346	263	240	234